

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

令和3年7月号 No.170

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

令和2年度 森林・林業白書

森林と林業に関する動向と施策をまとめた「令和2年度 森林・林業白書」が、令和3年6月1日に、令和2年度 森林及び林業の動向と令和2年度 森林及び林業施策について公表された。

冒頭のトピックスでは、令和2年度の動きとしての概要は下記のとおり紹介されています。

特集1は「森林を活かす持続的な林業経営」をテーマに、森林・林業経営体の現状を紹介した後、森林資源、経営両方の持続性を確保するための収益性向上、人材の確保・育成や体制整備等の取り組みを整理し、今後の林業経営の可能性を提示。

特集2は、新型コロナウイルス感染症の拡大による林業・木材産業への影響と対応が記述されています。

第I章 森林の整備・保全

第I章では、森林の整備・保全の動向や国際的な取組の推進について記述しています。

特に、森林経営管理制度と森林環境譲与税の取組状況について、事例を交えて紹介されています。

また、2050年カーボンニュートラルとの関係、本年3月に成立した間伐等特措法、「国土強靱化のための5カ年加速化対策」などが紹介されています。

第II章 林業と山村（中山間地域）

第II章では、林業や特用林産物、山村（中山間地域）の動向について記述しています。

森林組合法の改正については、改正のポイントを丁寧に紹介するとともに、特に販売の実務経験のある理事による取組などの事例が紹介されています。

第III章 木材需給・利用と木材産業

第III章では、木材需給、木材利用と木材産業の動向について記述しています。

特に、非住宅・中高層分野における木材利用について、企業、団体等が連携し、課題解決を図る事例を写真を交えて記載しています。

また、国産材供給量が約3,100万立方メートルまで増えてきたこと、木材自給率が9年連続上昇し、37.8%になり、製材用材では5割を超えたこと、木材の輸出は前半苦戦したものの輸出額は前年比3%増となったことなど紹介されています。

第IV章 国有林野の管理経営

第IV章では、国有林野の役割や国有林野事業の具体的取組について記述しています。

具体的には、公益的機能の発揮を重視した複層林・針広混交林への誘導や長伐期化、生物多様性の保全のための「保護林」や「緑の回廊」の取組、林業の成長産業化に向けた一貫作業システム等の低コスト化技術の開発・普及、民有林と連携した共同施業団地の設定、「国民の森林」としてNPO・学校・企業等へのフィールドを提供していることなどについて紹介しています。

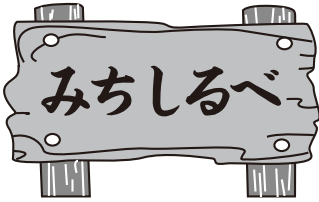
第V章 東日本大震災からの復興

第V章では、東日本大震災の発生から10年が経過し、これまでの復旧・復興に向けた取組を振り返り記述しています。

トピックス

1. 「公共建築物等における木材の利用促進に関する法律」施行10年を迎えて
2. 森林組合の経営基盤強化を目指す森林組合法の改正
3. 森林環境譲与税を活用した取組状況
4. 先端技術を活用した機械開発・実証によるスマート林業等が進展
5. 令和2年7月豪雨による産地災害等への対応
6. 東日本大震災で被害を受けた海岸防災林の再生

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを



経験したことのない ウッドショックは 何をもたらすか

名古屋港木材産業協同組合
理事長 服部 伸一

「50年以上木材業界にいるがこんなことは初めてです」このような声を聞きます。

米国の新規住宅着工が想定外に高水準で木材需要が急増し、米加材現地挽が極端な品薄になり、暴騰したことが発端であったが、中国の爆買いも加わり、欧州材そして国産材も不足し、高騰しています。SPFの価格がこの一年で4倍近くになるなど異常ともいえる状況です。

特に日本は世界的な木材価格高騰の中で他国に買い負けており十分な成約ができていません。年内はこのような品不足の状況が続くとの見通しもあります。

このような状況下で、木材業者は、取引先を守り工場を動かすために、一斉に国産材の調達に走っています。産地の各製材工場は、フル生産しても注文に追い付かない状況で価格の値上げも次々通っています。

さて、今回のウッドショックが特に川上から川中にかけての木材ビジネスを良い方向に変えるきっかけになるのでしょうか。木材業界はこれまで、川下と川上の力関係において住宅会社や消費者が圧倒的に強い立場にあるという状況が続いてきました。その結果、半世紀近くにわたり林業経営者や製材工場、木材問屋は薄利の商売を強いられてきました。木材価格が安すぎるのが根本的な要因です。

私は、木材流通が無駄に長いとは思っていません。一本の木材が無駄なく製品や原料や燃料に使われるためには流通業者の介在が必要です。ただし今回のウッドショックが業界の転換期となるよう木材業者として適正に行動したいものです。

- ① 林業も製材業も木材販売業もコストに見合った適正な価格で木材を販売できる世の中になればと思う。今こそ、投機的な儲けに走り過ぎず、モラルを守った商売を行わなくてはならない。
- ② 品質を度外視した木材の使用は中長期的にみて信頼を失うことになる。「適材がないから何でも使ってしまう」という発想は危険である。

これまで経験したことのない世界規模の変動なので、正直言って自信をもって先を見通すことが出来ませんが、大切な取引先に材料供給の責務を果たすために、数か月先の情報を収集し正しく行動することが求められています。

◆ 合縁木縁 ◆

「もう一つの紳士のスポーツ」

皆さんは、紳士のスポーツといえど何を思い浮かべますか？多くの方がゴルフやテニスを思い浮かべたのではないのでしょうか。今回は、そんな有名なスポーツの陰に隠れてしまっているもう一つの紳士のスポーツで、私の趣味の「ダーツ」についてお話させていただきます。

ダーツの競技人口は世界で2000万人、国内では580万人と言われています。国内人口がここまで増えたのは、ゲームセンターやカラオケ店などに置かれている「ソフトダーツ」のダーツマシーンが登場したことによるものです。

ダーツには大きく分けると「ハードダーツ」と「ソフトダーツ」の二種類あります。ハードダーツは名前の通りダーツの針が固く鋭い金属になっており、麻でできたダーツボードに投げて刺すものです。ソフトダーツはダーツの針がプラスチック製で、ダーツボードもダーツが刺さるように無数の穴が開いたプラスチック製のものになっている上に、得点等の計算もダーツマシーンが自動で行ってくれます。そのためハードダーツより安全性や利便性があり、様々な場所に置かれ、国内のダーツ人口増加につながりました。

そんなダーツですが、歴史を見ていくと実は私たちに馴染み深い「木」と関わりがあるスポーツであることが知られています。

ダーツは、14～15世紀頃イギリスで生まれ、ゴルフやテニスと比べると比較的新しいスポーツです。その当時イギリスは戦争の真っ只中で、酒場で休んでいた兵士達が空になったワイン樽の底に暇つぶしで矢を素手で投げていた事が起源と言われていきます。そこから投げやすいように矢が短くなっていき今のダーツになり、ワイン樽も高価なため輪切りにした木に代わり、その木の年輪や乾燥による放射状の亀裂などが得点計算の概念を生み、今のダーツボードになりました。

このように、私たちに馴染み深い木はダーツボードのデザインの元になり、ダーツのゲーム性に大きく関わりました。

マイナースポーツであるダーツですが、少しでも興味を持っていただけたなら幸いです。ルールも難しくないので、ぜひ一度気軽に遊んでみてください。

今回は、丸美産業株式会社 新見 光氏にお願いします。

◆ 自遊ご異見番 ◆

「不易流行」

新型コロナウイルスのワクチン接種が医療従事者を皮切りに、65歳以上の接種も4月より始まりました。また、全国対象の大規模接種や大手企業では職場接種を開始するなど、ここに来てようやくワクチン接種が加速化しております。まだまだ全国民には行き渡っておらず、予断を許さない状況ではありますが、収束への明るい兆しが見えてきたような気がします。

このコロナ禍において、社会状況は一変しました。経済環境、雇用・働き方、企業の競争環境の変化など社会全体の仕組みが大きく変わったように思います。また私達の生活面においても新しい生活様式への対応など変化を余儀なくされております。いかに人と人との接触機会を減らし感染拡大を防ぐかに重きを置かれ、非接触への意識の徹底が今なお続いている状況です。

只、やはり人と人との交流は面と面（フェイス to フェイス）でのコミュニケーションが基本であり、いかにオンラインなどデジタル化が加速しようとも本質的には変わらない部分だと思えます。どうしてもオンラインではコミュニケーションの希薄さを感じると共に、このコロナによって「出会いやつながり」の重要性を再認識した人も多いのではないのでしょうか。

松尾芭蕉が説いた「不易流行」という言葉があります。

「不易を知らざれば基立がたく、

流行を辨へざれば風あらたならず」

「不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、時代の流れを知らなければ澁澗とした句は作れない」と俳人芭蕉は『去来抄』の中で説かれました。つまりは「新しいものを機敏に取り入れつつも、決して物事の本質を見失わない」という意味だそうですが、先行き不透明で、変化の著しい時代の中で大切なのは、守るべきものと変えるべきものを見極めることではないかと思えます。私もコロナ禍によってもたらされた変化に対応しつつも、歴史や伝統、人とのつながりを重んじる、そうした気持ちでこのコロナ禍を乗り越えていければと思います。そして何より早くワクチンが普及し、誰もが普段通りの生活に戻れることを切に願う次第です。

令和3年度全国安全週間説明会

令和3年6月4日に令和3年度「全国安全週間説明会」が津島市文化会館で開催され、名古屋港木材産業協同組合の産業安全衛生委員会の委員の方にもご参加いただきました。

「持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場」をスローガンに、職場の安全活動等について津島労働基準協会・建設業労働災害防止協会・愛知県支部津島分会主催、各労働災害防止団体共催、津島労働基準監督署後援により説明・講演会がありました。

抜粋してご紹介いたします。

熱中症と災害発生プロセス

全ての労働災害は、「災害発生プロセス」を経て発生します。このため労働災害の検証等は、「災害発生プロセス」に沿って行うことが最も論理的です。



「災害発生プロセス」の上流に働きかける対策のほとんどは、事業者が取り組むべき事項です。作業者にできることは限られています。様々な対策を講じ、万全のように思えていても、実際には「災害発生プロセス」の一部の箇所にかたよった働きかけをしているに過ぎません。

愛知労働局発行パンフレットより

令和3年4月末時点 津島労働基準監督署管内労働災害発生状況

業種	年別	令和3年 同期累計件数	令和2年 同期累計件数	対前年 増減数
製造業		39	30	() +9
内	食料品製造業	10	9	() +1
	繊維工業・繊維製品製造業			() 0
	木材木製品・木製家具製造業	4	1	() +3
	紙加工品製造業・印刷製本業		3	() -3
	化学工業	5	1	() +4
	窯業・土石製品製造業	1		() +1
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	4	1	() +3
	金属製品・金属家具製造業	10	7	() +3
	一般機械器具製造業	1	2	() -1
	電気機械器具製造業	1	2	() -1
輸送用機械器具製造業	1	3	() -2	
その他の製造業		2	1	() +1
建設業		(1) 7	8	(+1) -1
鉄道・道路旅客				() 0
運輸交通業		29	23	() +6
陸上貨物取扱業		1	1	() 0
港湾荷役業		2	(1) 4	(-1) -2
商業		10	8	() +2
金融・広告業		1		() +1
通信業		2	2	() 0
保健衛生業		11	8	() +3
接客娯楽業		2	2	() 0
清掃業		7	4	() +3
その他の事業		(1) 7	8	(+1) -1
合計		(2) 118	(1) 98	(+1) +20

() 内は死亡者数を外数で表す。

◆ 広告コーナー

発行 名古屋木材組合
 発行者 西垣洋一
 〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10
 TEL <052> 331-9386
 FAX <052> 322-3376
 【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合
 発行者 服部伸一
 〒490-1444 海部郡飛鳥村木場1-74
 TEL <0567> 57-2017
 FAX <0567> 57-2018
 【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会